

な ぎ そ ま ち

南木曾町 リニア活用基本構想

なぎそまち

長野県南木曾町 令和2年3月

1 策定の趣旨

2 リニア中央新幹線計画

3 リニア開設後の南木曾町

4 リニアを活かした構想

- (1) 外資を稼ぐ力をつくる
- (2) ひとの流れをつくる
- (3) つながる基盤をつくる

5 今後の取り組み



第10次南木曾町総合計画

基本理念 **南木曾町を元気に ~住んで良かった、暮して良かった、住むなら南木曾町~**

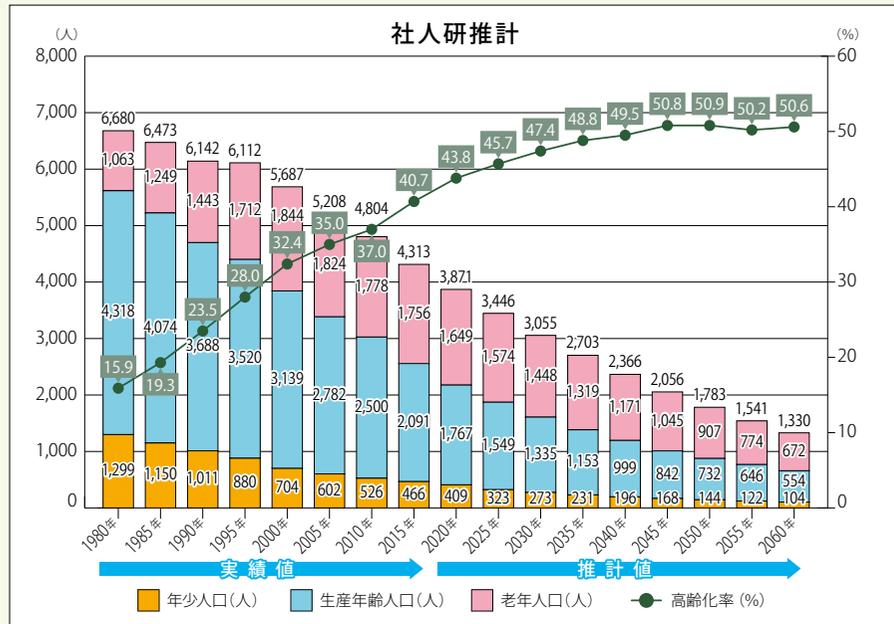
・めまぐるしく変化する社会経済に対応し、健全財政を維持しつつ、定住化の推進による活力ある町づくりを総合的、計画的に推進

人口ビジョン

- ・人口減少のスピードが加速
- ・人口規模の縮小により維持できない仕組みや施設がでてくる
- ・現実を受け止め、地域を守り南木曾町を消滅させないために、「オールなぎそ」での創生を

総合戦略第2期計画

- ・総合計画の考えを継承
- ・「人口減少の歯止め」、「人口減少社会の中での幸福な暮らしの維持」
- ・「若者が戻ってくる、魅力が更に磨かれるという正の循環を創出」
- ・「活力ある地域づくり」



リニアを活かしたまちづくり

開業後の様々な波及効果をチャンスとして活かせるよう準備をしていく必要があります。

リニア中央新幹線のもたらすプラス面の効果を最大化し、マイナス面の影響を最小化していくことが必要であり、積極的な取り組みを進めていくことが求められています。

南木曾町リニア活用基本構想

2 リニア中央新幹線計画

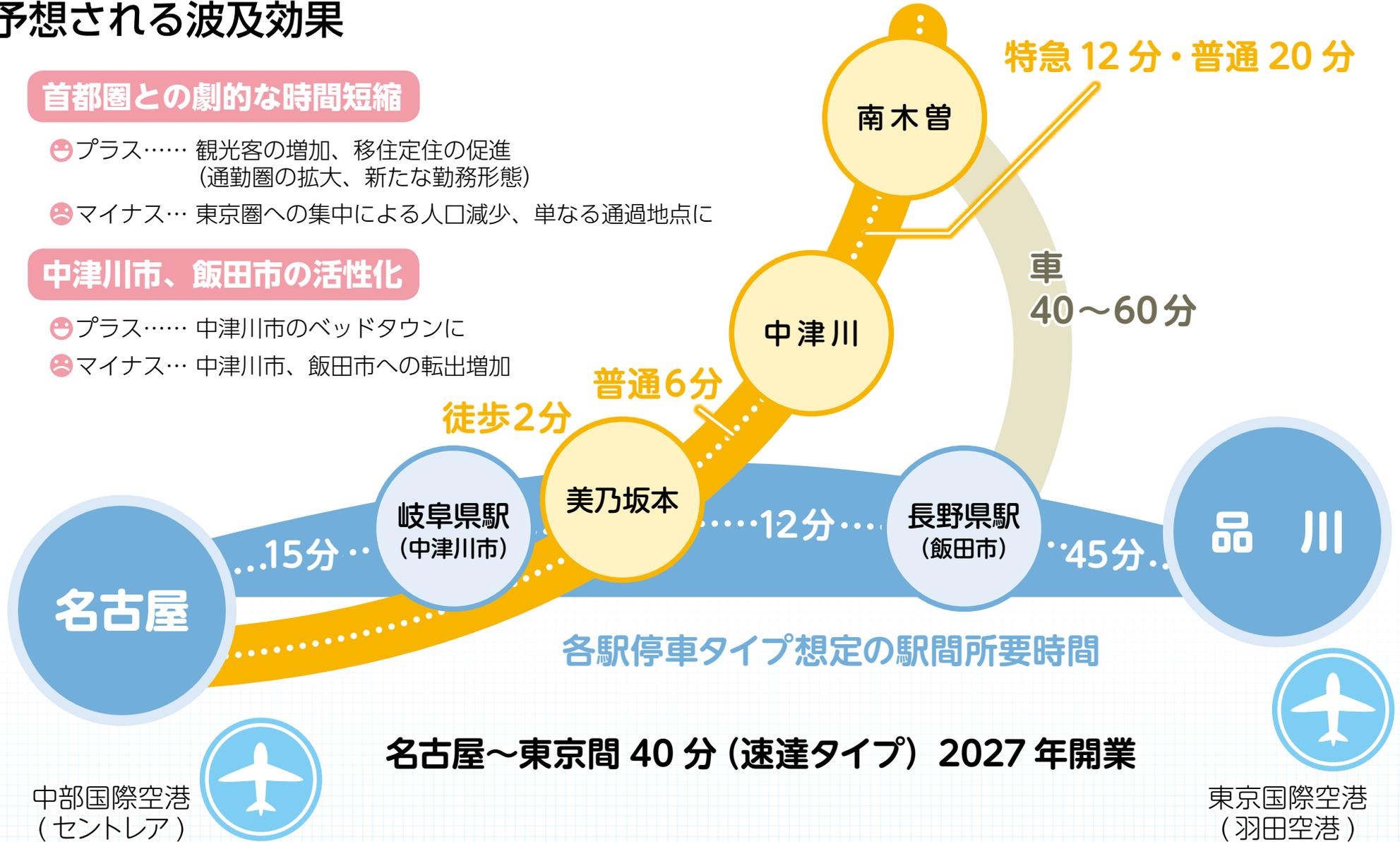
予想される波及効果

首都圏との劇的な時間短縮

- 😊 プラス…… 観光客の増加、移住定住の促進
(通勤圏の拡大、新たな勤務形態)
- 😞 マイナス… 東京圏への集中による人口減少、単なる通過地点に

中津川市、飯田市の活性化

- 😊 プラス…… 中津川市のベッドタウンに
- 😞 マイナス… 中津川市、飯田市への転出増加



3 リニア開設後の南木曾町

南木曾町リニア活用基本構想の策定にあたり、松本大学名誉教授 佐藤博康氏から、「リニア開設後の南木曾町」をテーマに提言（未来予測）をいただきました。

リニア新幹線の開設に伴う通過地域社会への影響と近未来地域づくりについて

1. 交通ネットワークの大転換

リニア高速交通による影響は停車駅地域の交通概念を大きく変化させる可能性がある。駅からの第二次交通において周辺地域へ時間短縮されたネットワークを発達させるのではないか。中津川であれば、高山、松本地域などへは1時間程度時間短縮となるだろう。これにより広域の活動拠点となる可能性がある。さらに、長野や北陸方面への中継点となる。南木曾地域の魅力が広く脚光を浴びるようになれば、もっぱら通過地点になるということは避けられるだろう。

キーワード：中津川駅を起点とする時間軸マップ

2. 首都圏および人口密集地との時間短縮がもたらす効果

東西の大都市圏（東京および名古屋）から1時間以内の時間距離になれば、当然通勤圏としての機能が検討されるべきだろう。現在首都圏では1時間通勤は一般的になっているが交通網の集中による不便性は解消できていない。リニアの途中駅からはこの混雑を避けて直接中心部に移動できることにより、混雑感の無い、より質の高い生活環境を提供することができるようになる。

キーワード：非日常と日常の効率的共有、生活関連や滞在のためのビジネス機会

3. 交流人口構造への変化と地域社会づくり

首都圏のビジネスマン（家族を含む）が時間と環境、利便性、経済性を基準に居住地を決定することを考慮すれば、リニア駅周辺（30分以内）は有力な選択の対象となるだろう。そのための受け入れ地域としての機能や地域づくりが求められるだろう。例えば、自然環境を生かしたスマートシティといった新しいまちづくりの基本構想の検証の場に利用することもできる。交通、医療、幼児教育などのインフラ整備に加え、大学などの研究機関や企業の誘致にも新たなインセンティブとなり就業機会も生まれることになる。さらに、食文化の再生、林業再生などに加えて新しいアクティビティのビジネスモデルづくりなど検討されることになるだろう。

キーワード：スマートタウンとしてのまちづくり

4. 木曾地域社会への波及効果

ほとんど手つかずの状態にあった木曾地域では、本物の自然とユニークな地域文化を維持してきたが、この本質を失うことなく、最大限に利用活用する機会となるだろう。それは南木曾地域のレガシーを破壊することなく保全するためのエネルギーに変えることにつながるだろう。その結果、より良い生活環境を求める都市住民の移住（IターンやUターンではない新たな人々）への関心も高まり、



新時代の本曾地域の見方が可能となるだろう。また、新しい産業として、教育、医療、観光などを始め、IT文化の地域への浸透を通して本曾文化がより広く認知されるようになるとともに経済的効果も期待できるのではないか。

キーワード：新しいまちづくりによる価値の共有と本曾の宝の保全

5. 地域伝統と未来技術の融合は可能か

妻籠、馬籠は言うまでもなくこの地域の最も重要な宝である。昨今の観光産業の停滞は、知名度の低さからも生じているものだ。リニア開通の機会を利用した近未来志向の地域建設により滞在人口や交流人口が拡大することになり旅行者の増加も期待できるだろう。これによって、観光産業の活性化が期待でき、地域文化財の保全にも役に立つものと考えられる。つまり、リニア活用による本曾路の保全と言う過去と未来の融合が可能となるように思われる。またこれは南本曾地域の次世代に夢と希望をもたらすことになるだろう。

キーワード：次世代への夢と希望の創出

例) 空き家を本曾木材でリフォーム (隈研吾氏などの設計による本曾木材を多用した建築物を含む)

6. 自然環境へのインパクト

最大の関心事は、リニアによる自然環境へのインパクトである。その内容は未知数であるが、少なからず自然へのインパクトは避けられないのではないか。そのインパクトをどのように評価して最小化させていくか、今後の科学的な議論を待ちたい。特に、建設中の多量の建設用運搬車や従事者の往来による様々な地域への負荷は短期的ではあるが検討しておく必要がある。また、排出土の処理や利用についても検討されなければならない。

7. リスクマネジメント

また、自然災害やリニア故障、事故など緊急時の場合の対応について、住民を始めリニア利用者とりわけ訪日および駐在外国人などへのコミュニケーション (情報提供を含む) 機能整備や受け入れ態勢づくりは不可欠であり、周辺都市との連携も重要となる。

8. 課題

将来図をどのように描くか、資本導入をどのように進めるか、など多くの課題が残る。また、地域住民の価値観と移住者 (企業なども含む) の価値観のすり合わせや地域開発をどこまで開放するかなどに向けての意思統一、リスクの共有など広く住民の意思決定が求められるだろう。また、他の停車駅 (山梨、飯田周辺) との競合関係も検討しなければならない。それでもなお、リニア開通の機会は中央西線開通時と同様、否それ以上のプラスマイナス効果の本曾地域にもたらすものと思われる。

【佐藤 博康 氏】

国際観光振興会 (JNTO) シカゴ、サンフランシスコ、ロサンゼルス勤務、文部省シカゴ国際交流ディレクターを経て2003年より松本大学教授、2015年より名誉教授。

外国人受入振興や地域おこしビジョンづくりのサポート、NHK BSで放映中、「COOL JAPAN 発掘! カッコいいニッポン」でコメンテーターを務める等各方面で幅広く活躍。2015年より南本曾町地方創生総合戦略会議委員。

(1) 外貨を稼ぐ力をつくる

妻籠宿に代表される資源を守り活かす

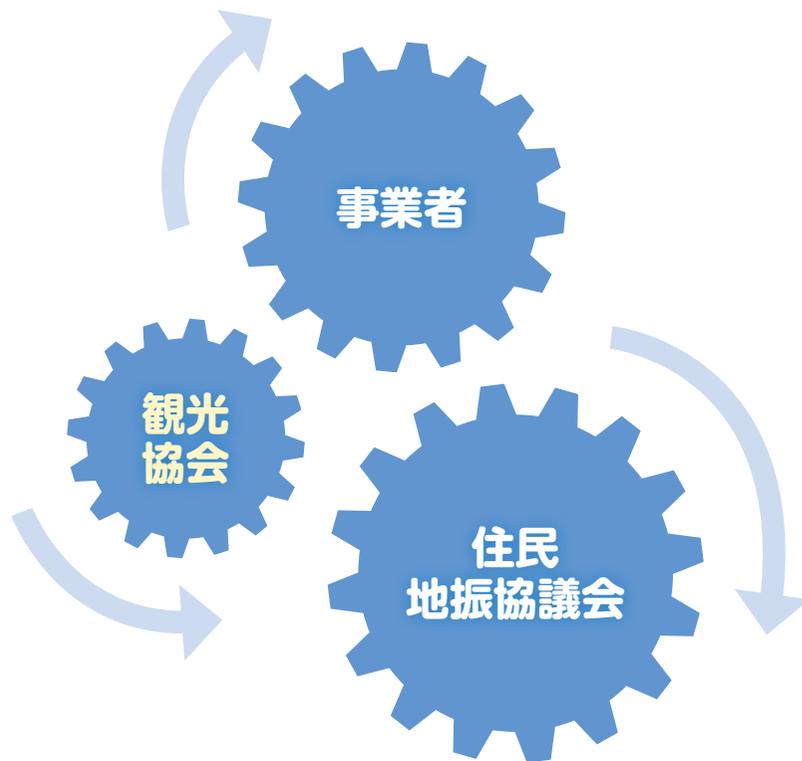
豊かな自然景観と妻籠宿に代表される歴史・文化的景観は、先人達が情熱を注ぎ努力し残してきたかけがえのない住民の財産で後世に守り伝えていきたいものであり、希少性が高い町の強みです。

希少性の高い町並みを保持

景観に対する取り組みの主体は住民です。住民組織である「妻籠を愛する会」がまとめ役となり景観が保持されてきました。今後とも希少性の高い町並みの維持が求められています。

滞在型観光地づくりを推進

妻籠宿を中心とした町の観光は通過型観光が中心となっています。町内の他地区や各種資源と結びついた町全体の観光収入の増加とはなっていない現状が見受けられます。消費を増やす滞在型観光地づくりを推進することが求められます。



担い手

伸ばす

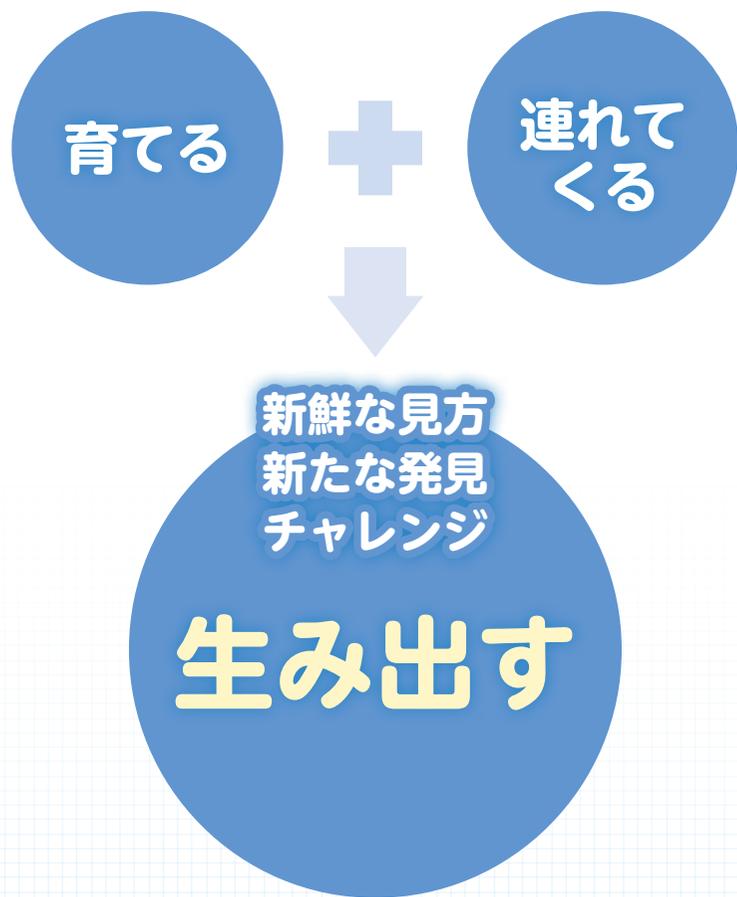
広げる

担い手

人口減少にともない、町並みを形成していた施設や維持してきた仕組みが維持できなくなる負の連鎖も予測されます。

一方、現在インバウンドによる外国人旅行者、訪問者の増加により付帯サービス（妻籠宿内や町内での開業等）が発生し始めています。地域に活気が生まれ、更に人が集まり、更なる付帯サービスが発生し、雇用が生まれる正の循環が創出される可能性があります。

この貴重な正の循環を大きくしていくためにも担い手の継続的な確保と新たな起業等への支援が必要です。



正の循環を持続するためには担い手が必要

- ・ 町内の人材の育成（地域の活力を生み出す若者の活動の支援）
- ・ 町外からの人材を獲得（客観的なものの見方ができる人材、町内の常識・価値観を超えて新しいチャレンジができる人材、若者の誘致）
- ・ 交流人口の拡大（大学との連携協定や下流域との交流促進）

◇ 町民からのアイデア、意見

- ・ 高齢化で労力がかかることが理由で宿泊施設が減少しているのであれば、飲食店を誘致して、食事の提供をしない宿泊施設へ移行し、現在の担い手が長く活動する。
- ・ 高齢化と後継者難で空家が増えている。特に妻籠宿では「売らない、貸さない、壊さない」の3原則と折り合いをつけ、借りる場合のルールを明確にすることで新たな担い手を確保する。

伸ばす

外国人旅行者を魅了する観光地

全国的な知名度を持つ国選定重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿を中心に、中山道のハイカーなど文化と自然を楽しむ外国人観光客が非常に多く、町は国際的な観光地となっています。

また、近年は妻籠宿から三留野宿を経由し与川道を通って野尻宿に向かうハイカーも増えています。

妻籠宿から三留野宿までの中山道と三留野宿から野尻宿までの与川道の景観を保全し、ハイカーが楽しめる魅力を高めます。

中山道周辺整備

(妻籠宿～三留野宿、南木曾駅周辺)

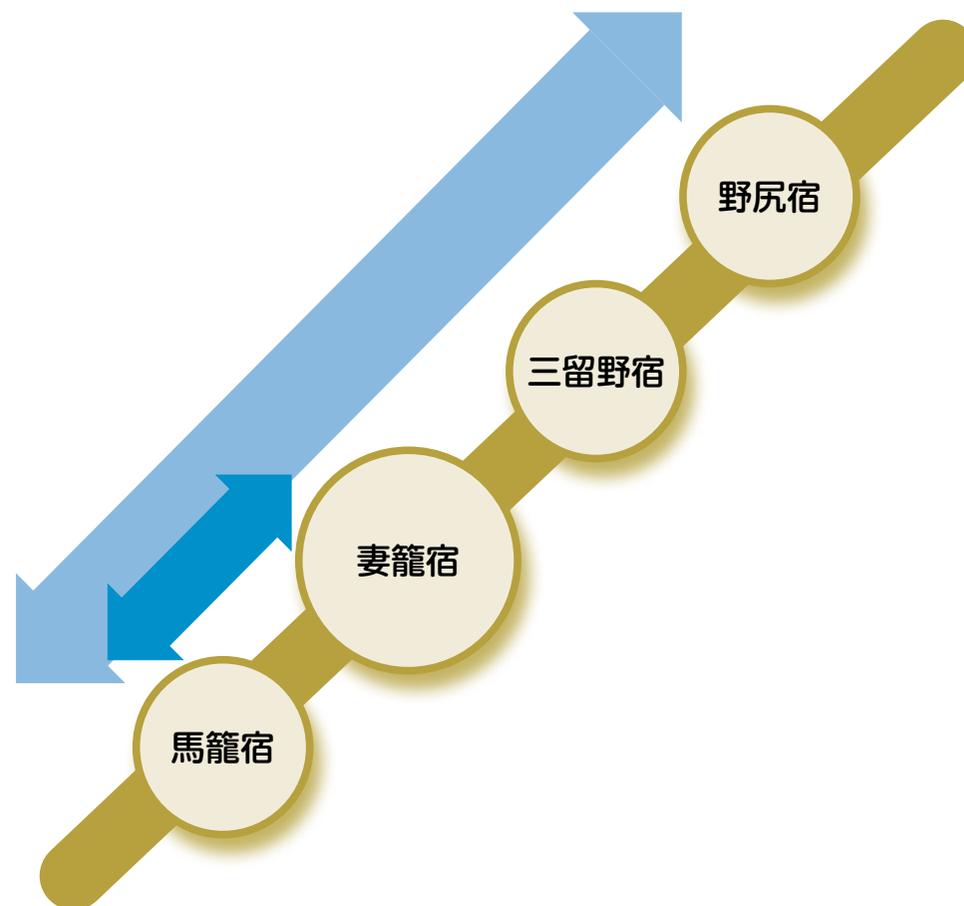
◇ 町民からのアイデア、意見

- ・ 妻籠宿の景観のみならず町内の普通の景観にも配慮すべき。
- ・ 空家の利活用と景観保全のための除却を重点的に行う。
- ・ 町の顔である駅前エリアの魅力の無さも改善すべき。駅から近い国道 19 号沿いに道の駅などの施設もほしい。
- ・ 駅、飲食店、コンビニがあり移住体験住宅の適地。

与川道周辺整備 (三留野宿～野尻宿)

◇ 町民からのアイデア、意見

- ・ 開発されずに残っている自然と里山の景観が魅力。
- ・ 道標、トイレ、通信環境等の整備は必要。
- ・ 与川道に腰を下ろして休憩できる場所を整備する。大げさなものでなくても丸太一本でもいい。



もっともっと伸ばす

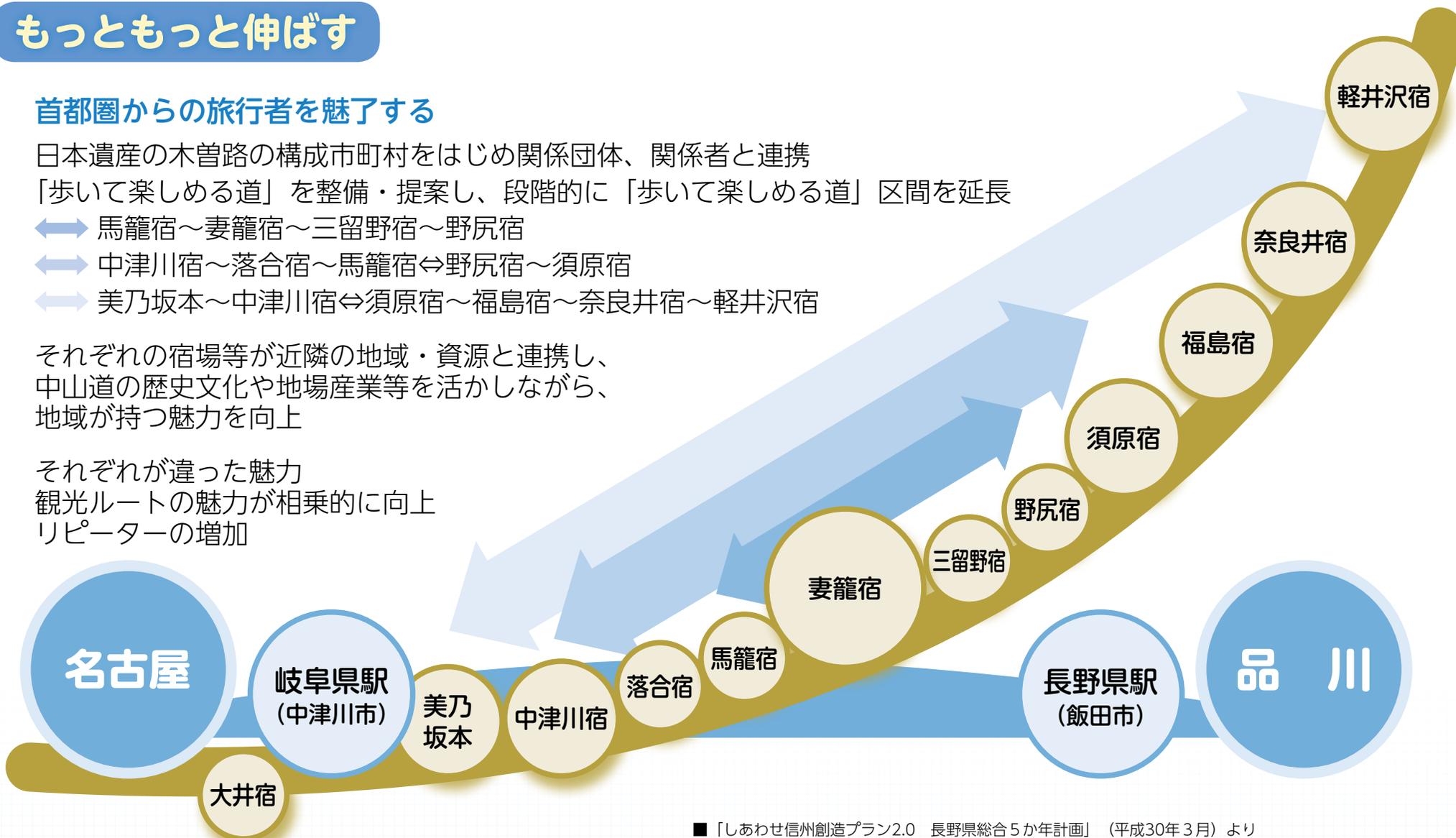
首都圏からの旅行者を魅了する

日本遺産の木曾路の構成市町村をはじめ関係団体、関係者と連携
「歩いて楽しめる道」を整備・提案し、段階的に「歩いて楽しめる道」区間を延長

- ↔ 馬籠宿～妻籠宿～三留野宿～野尻宿
- ↔ 中津川宿～落合宿～馬籠宿↔野尻宿～須原宿
- ↔ 美乃坂本～中津川宿↔須原宿～福島宿～奈良井宿～軽井沢宿

それぞれの宿場等が近隣の地域・資源と連携し、
中山道の歴史文化や地場産業等を活かしながら、
地域が持つ魅力を向上

それぞれが違った魅力
観光ルートの魅力が相乗的に向上
リピーターの増加



◇町民からのアイデア、意見

- ・ 観光では中津川市、南木曾町、大桑村の広域連携が必要。
そこから日本遺産の木曾路に繋げていく。

- 「しあわせ信州創造プラン2.0 長野県総合5か年計画」(平成30年3月)より
第5編地域計画 木曾地域 地域重点政策1-2
「木曾らしさ」を活かした地域づくり～日本遺産にも認定された、優れた「観光資源」を活かす～
- 「木曾観光地域づくり戦略2019 ～100年後に残したい木曾観光地域づくり～」木曾広域連合
- 「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」(令和元年7月)より
中山道三宿(中津川宿、落合宿、馬籠宿)
「食や体験プログラムを楽しみながら中山道三宿を歩く仕掛けづくり」、「史跡、登録有形文化財と街並み景観を活用し集客」

広げる

近隣の地域・日本遺産等の資源と連携し、魅力を向上させる。
 中山道、与川道を幹として其々の宿場や地域が様々な枝葉を広げる。
 観光資源の有機的な結び付きを高め、消費を増やす滞在型観光地づくりの推進。
 地域において継続的に催されている伝統的な行事や催事も観光資源として活用。

- ・ ハイキング
- ・ ウォーキング
- ・ トレッキング
- ・ 登山
- ・ サイクリング
- ・ キャンピング
- ・ エコツーリズム
- ・ アドベンチャー

滞在プログラムづくり

- ・ 伝統工芸体験
- ・ 農業体験
- ・ 郷土料理体験
- ・ 田舎暮らし体験
- ・ 山菜・きのこ狩り
- ・ お茶摘み
- ・ ねこづくり
- ・ 桧笠づくり

◇町民からのアイデア、意見

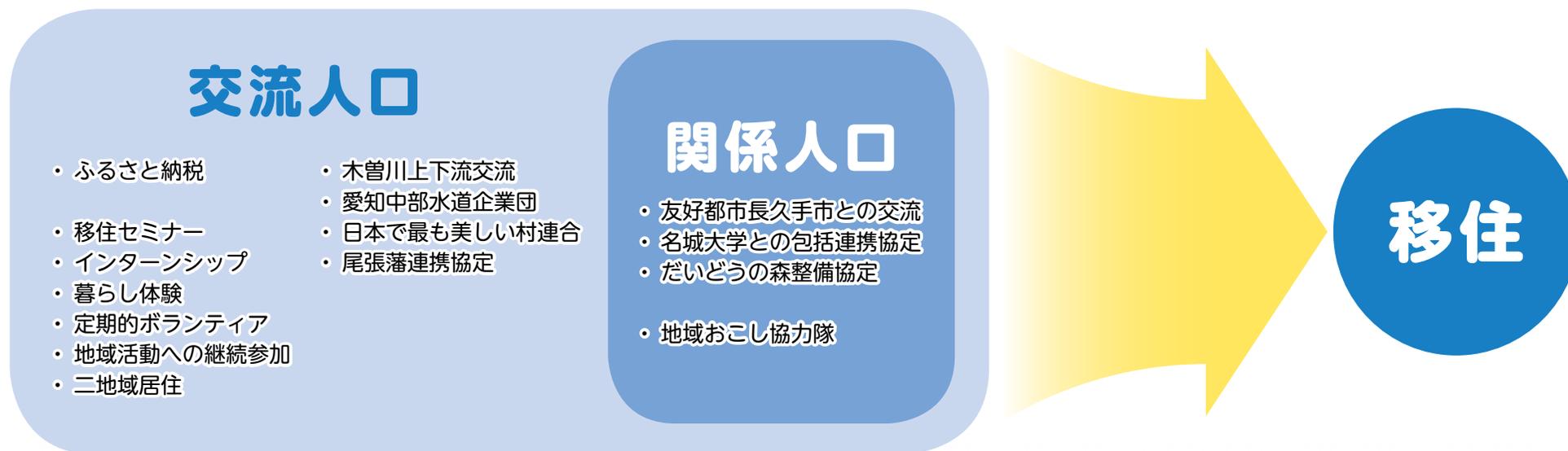
・ 南木曾町はリニア長野県駅と岐阜県駅の両方使える場所にある。上伊那、南信州や飛騨高山とも連携して2駅を活用した広域的な周遊ルートをつくる。



(2) ひとの流れをつくる

何度も来てくれる人の拡大

地域の担い手が減少しています。
交流人口を拡大することができれば、地域の経済活動が活発化し、地域に活力をもたらします。
交流人口の拡大が重要な役割を果たします。



地域への関心や地域との関わりを深める中で築いた地域との縁（関係）が地方移住を決めるきっかけとなることが多いことから、移住の裾野拡大等にむけて、地域に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大へ取り組みます。

リニア開業後

首都圏との交流人口が拡大
関係人口になるきっかけづくり、土壌づくり
腰の入った関係を強める

◇町民からのアイデア、意見

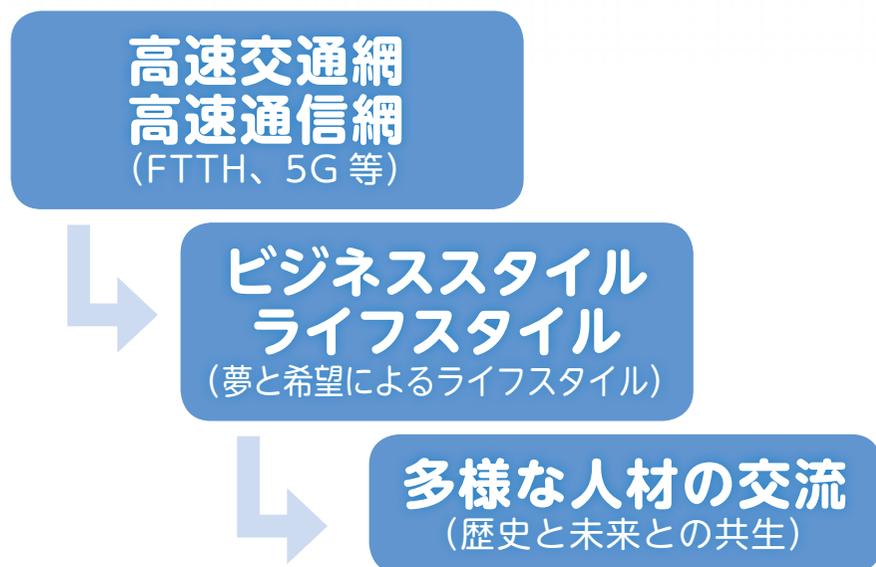
- ・継続して来れるような企画が必要。農業体験や妻籠宿保存のためのボランティアを募集する。

新たな交流をうみだす

リニアの開通により多様な人材の新たな交流が生まれる可能性がある。

豊かな自然を享受しながら働く、地域の絆の中で子育てを行う、都市圏の高齢者層の地方での社会参加が進むなど、豊かで多様なライフスタイルが可能となる。

多様な人材から南木曾町は移住先の候補地の一つとされる。



**候補地から移住先として選ばれるには
住む魅力を磨くことが重要。**

- リニアの開通による移動時間の劇的な短縮は、AI、IoT等の進展と相まって、多様な選択肢をもたらす
- 多様な働き方、暮らし方、新しい教育の形
- 豊かな自然の中での生活を望む若者や子育て世代の魅力的な移住先、二地域居住先となる
- 引続き地元に住みたい若者が、地域を離れず首都圏に通い住み続ける
- 新たな価値を創造し、持続可能な社会の構築に寄与していくことも期待される
- 地域においては、外部から訪れる人材を受け入れるコミュニティの寛容さが求められる

◇町民からのアイデア、意見

- ・ 山の中の不便な陸の孤島のような場所が、東京まで2時間くらいで行ける魅力的な場所になる。何もない豊かさを感じてくれる人を誘致したい。

選ばれるための条件づくり

働く場所として選ばれる

空家等を活用した起業支援

- ・観光関連企業
- ・木材を活用するものづくり企業

サテライトオフィスを活用した企業誘致
地域おこし協力隊の受入

森林資源活用による雇用創出

公共施設等の整備においては
町有林等の地元産材の利用を促進

移住定住場所として選ばれる

情報の発信、相談、就労支援

移住者受入体制の強化

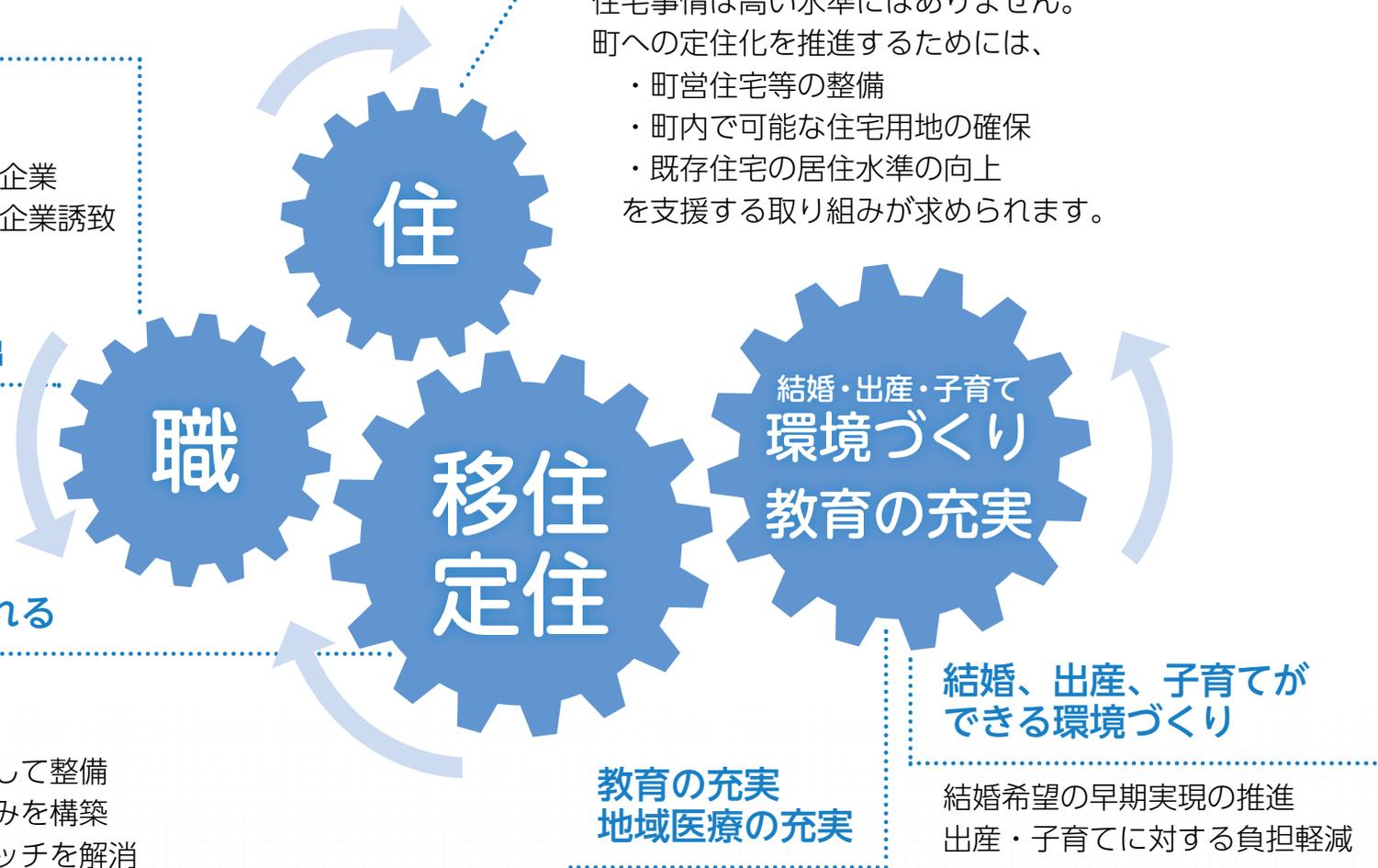
町内の空家を移住体験住宅として整備
田舎暮らしを経験できる仕組みを構築
理解を深め、移住後のミスマッチを解消

住む場所として選ばれる

住宅ニーズは高い状況にあります。
住宅事情は高い水準にはありません。
町への定住化を推進するためには、

- ・町営住宅等の整備
- ・町内で可能な住宅用地の確保
- ・既存住宅の居住水準の向上

を支援する取り組みが求められます。



◇町民からのアイディア、意見

- ・住んでいても他地域でやっていることは知らない。町内で行われている取り組みの情報発信があると住みやすさや魅力を改めて認識できる。

(3) つながる基盤をつくる

効果波及のための基盤整備

木曽路の大動脈「国道 19 号」

- リニア駅から早く安心して来ることができる道路整備（国道 19 号の危険箇所回避などの整備促進と雨量規制区間の解除、代替路の木曽川右岸道路の早期完成、リニア長野県駅とつながる国道 256 号・主要地方道の整備促進など）
- 観光バス、高速バス、レンタカー、マイカーによる安全安心な交通を担保
- セントレア、名古屋、リニア岐阜県駅、リニア長野県駅、南信州、伊那谷、飛騨路、北陸等と南木曽町がつながる広域交流、広域周遊の促進

リニア岐阜県駅と南木曽駅との連携

- J R 中央西線の利便性向上、美乃坂本駅と南木曽駅への特急しなの停車
- リニア岐阜県駅が首都圏、関西圏とつながる木曽路の南の玄関に

高速情報通信網

- 高速情報通信網、情報基盤の整備による移住定住の促進
- テレワーク、サテライトオフィス、サテライトキャンパスなど地方ならではのライフスタイル、新しい教育の形に
- 高速交通網との相乗効果により新たなビジネスモデルや価値観を生み出す

◇町民からのアイデア、意見

- ・ 町は過去に何度も自然災害に見舞われている。自然災害に対する安全対策が町づくりの前提となる。
- ・ 南木曽駅にエレベーターが設置できないのであれば、車いすで乗れるバスによるリニア岐阜県駅と南木曽駅との間の運行により高齢者、障害者が利用しやすくしてほしい。

5 今後の取り組み

人材の育成と民間との協働

人材を育て活かす

- 南木曾町創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援
(内部の人材と外部から訪れる人材等、多様な人材が担い手となることが重要となる)

産官学と協働する

- 公共団体に加え、地域づくりを担う組織や企業と連携
(行政のみによって対応できることはなく、民間の参画が重要となる)

◇町民からのアイデア、意見

- ・ 一般社団法人となった観光協会が大きな役割を果たすことを期待している。町がフォローすること。
- ・ 地域おこし協力隊が定住、起業できるような支援が必要。

人口減少に適応する

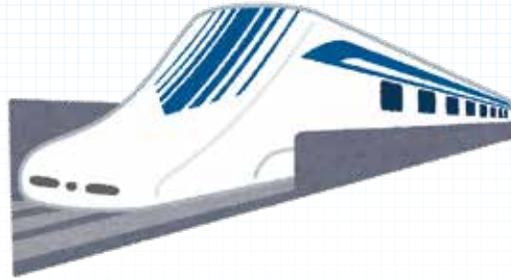
(一定の人口減少を見据えた町づくり)

- 全員活躍
- 広域的な連携
- 未来技術の活用
- 公共投資の選択と集中
- 既存資源の有効活用と除却

◇町民からのアイデア、意見

- ・ あっちこっちに様々な小さな施設をつくるのではなく集中すべき。





リニア中央新幹線の開業による効果は大きなものがあると想定されます。

プラス面を最大化しマイナス面を最小化するために本構想をもとに、「外貨を稼ぐ力づくり」、「人の流れづくり」及び「つながる基盤づくり」に取り組み、南木曾町の魅力を磨いていきます。

「住んで良かった、暮して良かった、住むなら南木曾町」と胸を張って言えるまちづくりを目指して、町民、関係の皆様と一緒に取り組んでいきます。

結びに、貴重なご意見・ご提言をいただきました町民の皆様、及び関係各位に心から感謝とお礼を申し上げます。

南木曾町長 向井 裕明

南木曾町リニア活用基本構想

令和2年(2020年)3月

南木曾町 産業観光課商工観光係
もっと元気に戦略室総合戦略係

〒399-5301 木曾郡南木曾町読書 3668-1
電話 0264-57-2001 (代表) FAX 0264-57-2270
E-mail genki-senryaku@town.nagiso.nagano.jp

